

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) **公開特許公報(A)**

(11) 特許出願公開番号

特開2008-195423

(P2008-195423A)

(43) 公開日 平成20年8月28日(2008.8.28)

(51) Int. Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 5/44 (2006.01)	B 6 5 D 5/44	A
B 6 5 D 5/64 (2006.01)	B 6 5 D 5/64	C
	B 6 5 D 5/64	E

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2007-32578 (P2007-32578)	(71) 出願人	000238005
(22) 出願日	平成19年2月13日 (2007. 2. 13)	(74) 代理人	株式会社フジシールインターナショナル 大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番6号
		(72) 発明者	竹尾 薫 大阪市鶴見区今津北5丁目3番18号 株 式会社フジパッケージングサービス内
		(72) 発明者	石井 陽子 大阪市鶴見区今津北5丁目3番18号 株 式会社フジパッケージングサービス内
		Fターム(参考)	3E060 AA03 AB12 BA24 BB05 BC04 CC12 CC17 CC43 CC52 CG23 DA02 DA23 DA26 EA06 EA20

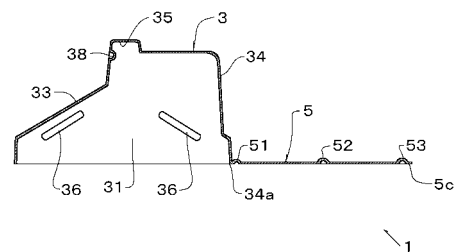
(54) 【発明の名称】 紙パック用の蓋

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、蓋本体の内部に物品収納空間を形成することができる紙パック用の蓋を提供することを課題とする。

【解決手段】 板状突出部 2 1 が突設された上方部 2 2 を有する紙パック 2 に着脱可能に取り付けられる紙パック用の蓋 1 に於いて、紙パック 2 の上方部 2 2 に被せられる下方開口型の蓋本体 3 であって、紙パック 2 の板状突出部 2 1 に外嵌可能な凹部 3 5 が設けられた蓋本体 3 と、蓋本体 3 の下方開口部を構成する辺部のうちの少なくとも一辺部から一体的に延設されたシート片 5 であって、蓋本体 3 の内部へ折り曲げ可能なシート片 5 と、を有し、シート片 5 を蓋本体 3 の下方開口部から内部へ折り曲げることにより、蓋本体 3 とシート片 5 の間に物品収納空間 6 が形成される。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

板状突出部が突設された上方部を有する紙バックに着脱可能に取り付けられる紙バック用の蓋に於いて、

前記紙バックの上方部に被せられる下方開口型の蓋本体であって、紙バックの板状突出部に外嵌可能な凹部が設けられた蓋本体と、前記蓋本体の下方開口部を構成する辺部のうちの少なくとも一辺部から一体的に延設されたシート片であって、蓋本体の内部へ折り曲げ可能なシート片と、を有し、

前記シート片を蓋本体の下方開口部から内部へ折り曲げることにより、蓋本体とシート片の間に物品収納空間が形成されることを特徴とする紙バック用の蓋。

10

【請求項 2】

前記シート片を折り曲げた際、シート片の一部が、蓋本体の凹部に嵌入される請求項 1 に記載の紙バック用の蓋。

【請求項 3】

前記凹部に嵌入される前記シート片の嵌入領域には、紙バックの板状突出部の面に当接しうる突部が形成されている請求項 2 に記載の紙バック用の蓋。

【請求項 4】

前記紙バックの上方部が、互いに向かい合うように傾斜された一对の傾斜面部と、前記一对の傾斜面部の上辺部を接着することにより形成された板状突出部と、前記一对の傾斜面部のそれぞれの側辺部間に形成された凹み面部と、を有し、

20

前記蓋本体には、前記紙バックの凹み面部側へ突出する係止凸部であって、少なくとも何れか一方の傾斜面部の側辺部に係止可能な係止凸部が形成されている請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の紙バック用の蓋。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、紙バックの上方部に被せられる蓋に関する。

【背景技術】**【0002】**

紙バックの上方部の形状として、稜線に沿って板状突出部が突設された切妻屋根状の 2 つの傾斜面部を有するものが知られている。かかる切妻屋根状の紙バックは、ゲブルトupp型紙バックとも呼ばれている。該紙バックは、例えば、牛乳、果汁などの飲料、生クリームなどの乳製品、日本酒などのアルコール飲料、みりんなどの液状調味料などを封入する容器として広く用いられている。

30

【0003】

従来、特許文献 1 に、この種の紙バック用の蓋が開示されている。かかる蓋は、3 個の山形突出部を有し且つ紙バックの上方部に被せられる外筒と、中央に山形突出部を有する中底板と、からなる。該蓋は、中底板の山形突出部を外筒の山形突出部に内嵌すると共に、外筒と中底板を結合するために両者間が接着テープ又は電気溶接によって止着されている。

40

また、特許文献 2 に開示された紙バック用の蓋は、3 個の山形突出部を有する本体（特許文献 1 の外筒に相当する）と、山形突出部を有する底板（特許文献 1 の中底板に相当する）と、からなり、底板の山形突出部を本体の中央の山形突出部に内嵌することにより、本体と底板の間に 2 箇所の収納空間を形成し、該空間に口金やしぼり袋が収容されている。

【0004】

しかしながら、従来の紙バック用の蓋は、外筒と中底板が外れないように、接着テープや熱シールなどによって、中底板を外筒に対して止着する必要がある、このテープ止め等の作業が煩雑である。

他方、このように中底板が接着テープなどで外筒に止着されているため、収納された口

50

金などを取り出す際、中底板を外し難いという問題点がある。

【 0 0 0 5 】

さらに、上記従来の蓋は、搬送時、異物と接触して、紙バックから外れる虞があり、それを改善する必要もある。

【特許文献 1】実用新案登録第 3 0 0 6 8 7 7 号公報

【特許文献 2】実用新案登録第 3 0 7 0 6 4 1 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 6 】

そこで、本発明は、接着テープなどを用いずに、蓋本体の内部に物品収納空間を形成することができる紙バック用の蓋を提供することを第 1 の課題とする。

また、本発明は、搬送時に紙バックから外れ難い紙バック用の蓋を提供することを第 2 の課題とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

本発明の手段は、板状突出部が突設された上方部を有する紙バックに着脱可能に取り付けられる紙バック用の蓋に於いて、紙バックの上方部に被せられる下方開口型の蓋本体であって、紙バックの板状突出部に外嵌可能な凹部が設けられた蓋本体と、蓋本体の下方開口部を構成する辺部のうちの少なくとも一辺部から一体的に延設されたシート片であって、蓋本体の内部へ折り曲げ可能なシート片と、を有し、シート片を蓋本体の下方開口部から内部へ折り曲げることにより、蓋本体とシート片の間に物品収納空間が形成される紙バック用の蓋を提供する。

【 0 0 0 8 】

上記紙バック用の蓋は、蓋本体の内部に所望の物品を入れた後、シート片を蓋本体の下方開口部から内部側へと折り曲げる。該シート片の折り曲げによって、シート片と蓋本体の間に物品収納空間が形成されるので、蓋本体内部に入れた物品を収納保持することができる。かかる物品収納済みの蓋は、紙バックの上方部に被せられて使用される。

上記紙バック用の蓋は、蓋本体から一体的に延設されたシート片を折り曲げることによって、物品収納空間が形成されるので、接着テープなどを用いてシート片を止着する必要がなく、物品を簡易に収納することができる。

また、上記物品収納済みの蓋は、折り曲げられたシート片を蓋本体から引き出すだけで、収納された物品を簡易に取り出すことができる。

【 0 0 0 9 】

さらに、本発明の好ましい態様は、上記シート片を折り曲げた際、シート片の一部が、蓋本体の凹部に嵌入される上記紙バック用の蓋である。

かかる好ましい態様の蓋は、シート片の一部が蓋本体の凹部に嵌入されるので、被した蓋を紙バックから取り外した際に、折り曲げられていたシート片自身の復元力によって、該シート片が蓋本体の内部から外れることを防止できる。

従って、蓋を紙バックから外したときに、不用意に物品が落ちることを防止できる。

【 0 0 1 0 】

また、本発明の好ましい態様は、上記凹部に嵌入される上記シート片の嵌入領域には、紙バックの板状突出部の面に当接しうる突部が形成されている上記紙バック用の蓋である。

かかる好ましい態様の蓋は、紙バックの板状突出部に凹部を外嵌しつつ蓋を紙バックに被せることにより、該シート片の嵌入領域に突設された突部が紙バックの板状突出部に当たり、該板状突出部の面を押圧する。従って、蓋本体の凹部と紙バックの板状突出部の間に間隙を有していても、該隙間にシート片の突部が介在するので、被せた蓋が紙バックから不用意に外れることを防止できる。

【 0 0 1 1 】

さらに、本発明の好ましい態様は、上記紙バックの上方部が、互いに向かい合うように

10

20

30

40

50

傾斜された一对の傾斜面部と、一对の傾斜面部の上辺部を接着することにより形成された板状突出部と、一对の傾斜面部のそれぞれの側辺部間に形成された凹み面部と、を有し、上記蓋本体には、紙パックの凹み面部側へ突出する係止凸部であって、少なくとも何れか一方の傾斜面部の側辺部に係止可能な係止凸部が形成されている上記紙パック用の蓋である。

かかる紙パック用の蓋は、蓋本体を紙パックの上方部に被した際、傾斜凸部が紙パックの傾斜面部の側辺部に係止されるので、被せた蓋が紙パックから不用意に外れることを防止できる。

【発明の効果】

【0012】

本発明に係る紙パックの蓋は、接着テープなどを用いずに、蓋本体の内部に物品収納空間を形成して、物品を収納することができる。従って、本発明の蓋は、物品の収納作業を簡易に行うことができ、一方、収納された物品を取り出すことも簡易に行うことができる。

また、本発明の好ましい態様の蓋は、紙パックに対して外れ難いので、例えば、搬送途中で異物と接触した際に、紙パックから脱落することを防止できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0013】

以下、本発明について、図面を参照しつつ具体的に説明する。

ただし、同様の構成を示す用語の接頭語として、「第1」、「第2」などを付すが、これは、用語を区別するために付するものであり、部材の優劣、順序などを意味するものではない。また、方向を示す用語として、「上」は、紙パックを自立させた状態を基準として、自立させた面から鉛直方向へ離れる方向を指す。「下」は、紙パックを自立させた状態を基準として、自立させた面に近づく方向を指す。

【0014】

図1～図4に於いて、1は、紙パック用の蓋を示す。

本発明の蓋1は、図5に示すように、板状突出部21が突設された略切妻屋根状の上方部22を有する紙パック2に、着脱可能に取り付けられる。

【0015】

紙パック2は、従来から広く用いられている、ゲブルトップ型の紙パックである。該紙パック2は、例えば、牛乳、果汁などの飲料、生クリームなどの乳製品、日本酒などのアルコール飲料、みりんなどの液状調味料などを封入する容器として広く用いられている。

具体的には、該紙パック2は、例えば、厚紙にフィルムが積層されたラミネートシートを用いて形成されている。該紙パック2は、四角筒状の胴部23と、該四角筒状の胴部23の下面を閉塞する平坦状の底面部24と、該胴部23の上面を閉塞する略切妻屋根状に形成された一对の傾斜面部25、26と該一对の傾斜面部25、26の稜線に沿って上方に突設された板状突出部21とを有する上方部22と、を備える。

上記紙パック2の上方部22は、四角筒状の胴部23の上方側に於ける4つの壁面のうち、対向する第1壁面及び第2壁面の面内に、各壁面の上辺中央から左右傾斜状に延びる折り目を形成し、該折り目に沿って前記第1及び第2壁面をそれぞれ内側へ折り込みつつ、残る2つの第3壁面及び第4壁面を互いに向かい合うように傾斜させると共に、該第3壁面及び第4壁面の上辺部を接着することによって形成されている。

【0016】

従って、紙パック2の上方部22は、互いに向かい合うように傾斜された一对の傾斜面部25、26（上記第3及び第4壁面）と、該一对の傾斜面部25、26の両側辺部25a、26aと上記第1及び第2壁面とによって形成される三角状を成す一对の凹み面部27と、一对の傾斜面部25、26の稜線（上辺部）に沿って上方に突出された板状突出部21と、を有する。

この板状突出部21は、一对の傾斜面部25、26の上辺部を幅方向に帯状に接着した

10

20

30

40

50

部分である。該板状突出部 2 1 は、その接着部分を捲り剥がすことによって、紙バック 2 を開口する開封口となる。

【0017】

上記紙バック用の蓋 1 は、紙バック 2 の上方部 2 2 に被せられる下方開口型の蓋本体 3 と、該蓋本体 3 の一辺部から一体的に延設されたシート片 5 と、を備える。

蓋本体 3 は、上記紙バック 2 の一对の凹み面部 2 7 を覆う一对の側面壁 3 1 , 3 2 (第 1 及び第 2 側壁面) と、該一对の側面壁 3 1 , 3 2 の間に形成され且つ紙バック 2 の一对の傾斜面部 2 5 , 2 6 を覆う一对の正面壁 3 3 , 3 4 (第 1 及び第 2 正面壁) と、前記一对の正面壁 3 3 , 3 4 の接合部分に形成され且つ紙バック 2 の板状突出部 2 1 に上方から外嵌可能な凹部 3 5 と、を有する。

蓋本体 3 の第 1 及び第 2 側面壁 3 1 , 3 2 は、紙バック 2 に被せた際、紙バック 2 の傾斜面部 2 5 , 2 6 の側辺部 2 5 a , 2 6 a の縁に当接しうる。この蓋本体 3 の側壁面 3 1 , 3 2 には、紙バック 2 の凹み面部 2 7 側 (蓋本体 3 の内部側) へ向かって突出する係止凸部 3 6 が形成されている。この係止凸部 3 6 は、蓋本体 3 を紙バック 2 の上方部 2 2 に被せた状態に於いて、傾斜面部 2 5 , 2 6 の側辺部 2 5 a , 2 6 a の下方に係止できる位置に突出されている。

【0018】

この係止凸部 3 6 は、紙バック 2 の一对の凹み面部 2 7 , 2 7 に存する一对の傾斜面部 2 5 , 2 6 の各側辺部 2 5 a , 2 6 a に対応してそれぞれ形成されている。従って、係止凸部 3 6 は、蓋本体 3 の第 1 及び第 2 側面壁 3 1 , 3 2 にそれぞれ 2 ヶ所ずつ形成されている。かかる係止凸部 3 6 が形成されていることにより、蓋本体 3 を紙バック 2 の上方部 2 2 に被した際、各係止凸部 3 6 が紙バック 2 の一对の傾斜面部 2 5 , 2 6 の各側辺部 2 5 a , 2 6 a に各々係止される。このため、蓋本体 3 が紙バック 2 から不用意に外れることを防止できる。

ただし、係止凸部 3 6 は、上記のように 4 ヶ所形成されている場合に限定されず、係止凸部 3 6 が、2 ヶ所形成されているもの、或いは、1 ヶ所形成されているものなどでもよい。要は、係止凸部 3 6 によって、紙バック 2 の傾斜面部 2 5 , 2 6 の側辺部 2 5 a , 2 6 a の少なくとも 1 ヶ所にて係止できればよい。もっとも、上記のように係止凸部 3 6 が 4 ヶ所形成されている場合には、紙バック 2 に対する係止を確実にできるのが好ましい。

【0019】

次に、蓋本体 3 の第 1 正面壁 3 3 は、紙バック 2 の一方の傾斜面部 2 5 の上方を覆い且つ該傾斜面部 2 5 に接するように傾斜して形成されている。蓋本体 3 の第 2 正面壁 3 4 は、紙バック 2 の他方の傾斜面部 2 6 の上方を覆い且つ該傾斜面部 2 6 との間に空間を有するように離反して形成されている。例えば、該第 2 の正面壁 3 4 は、凹部 3 5 から延びる水平面と該水平面の端部から下方に延びる鉛直面の 2 つの面からなる。

【0020】

蓋本体 3 の凹部 3 5 は、紙バック 2 の板状突出部 2 1 に対応して、蓋本体 3 の略全幅に渡って形成されている。つまり、該凹部 3 5 は、板状突出部 2 1 の延びる方向と平行な方向に、凹みが延びている長状凹部である。

該凹部 3 5 の内寸は、紙バック 2 の板状突出部 2 1 を挿入脱できる程度であれば特に限定されず、例えば、紙バック 2 の板状突出部 2 1 の肉厚よりも広く形成されている。例えば、板状突出部 2 1 は、通常、厚み 1 ~ 2 mm 程度のものが汎用されているため、凹部 3 5 の内寸は、3 ~ 10 mm 程度に形成される。

【0021】

蓋本体 3 の下方開口部は、一对の側面壁 3 1 , 3 2 の下辺部と一对の正面壁 3 3 , 3 4 の下辺部によって構成され、該下方開口部は、略正形状とされている。

なお、蓋本体 3 は、下方開口部を通じて紙バック 2 の上方部 2 2 に被せられるが、蓋本体 3 を被した際、蓋本体 3 の側面壁 3 1 , 3 2 の下方側及び正面壁 3 3 , 3 4 の下方側が、紙バック 2 の胴部 2 3 の一部に被さるように形成されている。

【0022】

次に、シート片 5 は、蓋本体 3 の一辺部から延設されており、平面視矩形状に形成されている。本実施形態では、シート片 5 は、第 2 正面壁 3 4 の下辺部 3 4 a (板状突出部 2 1 の延びる方向と平行な辺部) から一体的に延設されている。

蓋本体 3 とシート片 5 の境界部分であるシート片 5 の基部には、ヒンジ部 5 1 が形成されている。このヒンジ部 5 1 は、シート片 5 の全幅に渡って (シート片 5 の一側縁 5 a から他側縁 5 b にかけて) 形成された凸状部からなる。該ヒンジ部 5 1 を介して、シート片 5 を折り曲げることができる。また、該ヒンジ部 5 1 は、凸状部からなるので、シート片 5 を折り曲げた際、該凸状のヒンジ部 5 1 が、紙バック 2 の胴部 2 3 の上方側に当接しうる。このため、該凸状のヒンジ部 5 1 は、蓋本体 3 を紙バック 2 から外れ難くする機能を有する。

10

もっとも、ヒンジ部 5 1 は、かかる凸状部に限られず、例えば、シート片 5 にミシン目線やハーフカット線を形成することで代用することもできる。また、かかるヒンジ部 5 1 が設けられていなくても、シート片 5 は、蓋本体 3 との境界部分に於いて、折り曲げることができる。

【0023】

さらに、シート片 5 の中央部及び先端辺部 5 c 近傍には、第 1 突部 5 2 及び第 2 突部 5 3 がそれぞれ形成されている。この突部 5 2 , 5 3 は、蓋本体 3 の第 2 正面壁 3 4 の下辺部 3 4 a と平行に延びているが、シート片 5 の一側縁 5 a 及び他側縁 5 b にまで至らずにシート片 5 の面内に形成されている。

該第 1 及び第 2 突部 5 2 , 5 3 は、シート片 5 を平面状に保持する補強リブとして機能する。また、第 2 突部 5 3 は、シート片 5 を蓋本体 3 の内部に折り曲げてその先端辺部 5 c を凹部 3 5 に嵌入した状態で、紙バック 2 の板状突出部 2 1 に当接する押圧用の突部としても機能する。シート片 5 を折り曲げた際に、第 2 突部 5 3 が紙バック 2 の板状突出部 2 1 に当たるようにするために、図 2 及び図 3 に示すように、第 2 突部 5 3 は、シート片 5 の上方側へ向けて突出されている。

20

【0024】

なお、蓋本体 3 の凹部 3 5 の幅方向中央部にも、第 3 突部 3 8 が形成されている。この第 3 突部 3 8 は、凹部 3 5 の内部側に向かって突出されている。該第 3 突部 3 8 は、蓋本体 3 の凹部 3 5 を板状突出部 2 1 に外嵌した際に、板状突出部 2 1 の面に当接しうる。

【0025】

このシート片 5 の長さ (シート片 5 の基部から先端辺部 5 c までの長さ) は、蓋本体 3 の内部に折り込んだ際、シート片 5 の先端辺部 5 c が、蓋本体 3 の凹部 3 5 に嵌入しうる長さに形成されている。

また、シート片 5 の幅 (シート片 5 の一側縁 5 a から他側縁 5 b までの長さ) は、蓋本体 3 の第 2 正面壁 3 4 の下辺部 3 4 a の幅よりも僅かに狭く形成されている。

【0026】

蓋 1 の材質は、特に限定されず、通常、合成樹脂が用いられる。合成樹脂としては、ポリプロピレン、ポリエチレンなどのポリオレフィン系、ポリエチレンテレフタレートなどのポリエステル系、ポリスチレン系、ポリアミド系などの熱可塑性樹脂を用いることができる。蓋 1 の材質は、透光性を有するもの (透明又は半透明)、実質的に透光性を有しないもの、の何れを用いてもよい。内部に収納した物品を透視できるので、蓋 1 は、透光性を有する材質を用いることが好ましい。

30

40

【0027】

蓋 1 は、蓋本体 3 とシート片 5 を一体的に形成できるものであればその製法は特に限定されず、例えば、シート成形法、射出成形法などが挙げられる。

蓋 1 は、好ましくはシート成形法によって形成される。例えば、蓋 1 は、厚み 300 μ m ~ 700 μ m 程度の熱可塑性樹脂シート (例えば、ポリプロピレンシート等) を用いて、公知のシート成形法によって形成することができる。

なお、蓋 1 には、必要に応じて、適宜なデザイン印刷を施してもよいし、又、ラベルなどを貼付してもよい。

50

【 0 0 2 8 】

次に、本発明の紙バック用の蓋 1 の使用例について説明する。

図 6 に示すように、蓋本体 3 の第 2 正面壁 3 4 の下面側に物品 X を挿入する。

収納される物品 X は、特に限定されず、各種景品、口金やしぼり袋などの調理用備品などの任意のものである。

次に、ヒンジ部 5 1 に於いてシート片 5 を内側へ折り曲げ、シート片 5 の先端辺部 5 c を蓋本体 3 の凹部 3 5 に嵌入する（該凹部 3 5 に嵌入した部分を、シート片 5 の嵌入領域という）。シート片 5 が、凹部 3 5 に嵌入されることにより、折り曲げられたシート片 5 は、凹部 3 5 に係止される。このためシート片 5 は元の状態に復帰せず、該シート片 5 と蓋本体 3 の第 2 正面壁 3 4 の間に物品 X の収納された物品収納空間 6 が形成される。

10

このように折り曲げたシート片 5 の一部が凹部 3 5 に嵌入されていると、シート片 5 の復元力によってシート片 5 が元の状態に戻る虞がなく、物品 X を確実に保持できる。

【 0 0 2 9 】

なお、シート片 5 の嵌入領域は、第 2 突部 5 3 を含んでいる。シート片 5 は折り曲げられて反転するので、上記嵌入領域に於ける第 2 突部 5 3 は、凹部 3 5 の内部側に向かって突出した状態となる。

また、折り曲げられたシート片 5 は、それ自身の復元力によって、下方側へ回動するように付勢されている。従って、シート片 5 の嵌入領域は、凹部 3 5 の一方の内面 3 5 a （第 1 傾斜面 3 3 に近接した面）に当たった状態となる。

【 0 0 3 0 】

20

物品収納済みの蓋 1 は、図 7 に示すように、紙バック 2 の上方部 2 2 に被せられる。具体的には、蓋 1 は、蓋本体 3 の下方開口部から紙バック 2 の上方部 2 2 に被せ、蓋本体 3 の凹部 3 5 を紙バック 2 の板状突出部 2 1 に外嵌することにより、紙バック 2 に取り付けられる。

蓋本体 3 の凹部 3 5 には、折り曲げられたシート片 5 が嵌入しているので、該シート片 5 の嵌入領域が板状突出部 2 1 の一面に当たり、該シート片 5 の付勢力により、凹部 3 5 の一方の内面 3 5 a とシート片 5 の嵌入領域の間に存する板状突出部 2 1 を挟持することができる。特に、板状突出部 2 1 の嵌入領域には第 2 突部 5 3 が突設され、且つ凹部 3 5 には第 3 突部 3 8 が突設されているので、第 2 突部 5 3 が、板状突出部 2 1 の一面にスポット的に当接し、且つ第 3 突部 3 8 が板状突出部の他面にスポット的に当接する。従って、上記シート片 5 の付勢力と相乗して、シート片 5 の第 2 突部 5 3 が、板状突出部 2 1 の面を押圧するので、蓋 1 は、紙バック 2 から外れにくくなる。

30

【 0 0 3 1 】

また、蓋本体に形成された係合凸部 3 6 が、紙バック 2 の傾斜面部 2 5 , 2 6 の側辺部 2 5 a , 2 6 a の下方に係止されるため、蓋 1 は、より確実に紙バック 2 に取り付けられ、搬送途中で不用意に外れる虞がない。

【 0 0 3 2 】

なお、本発明は、上記実施形態の蓋に限られず、適宜設計変更できる。以下、本発明の変形例を示すが、主として上記実施形態と異なる構成について説明し、同様の構成については、説明を省略し、用語及び符号を援用する場合がある。

40

【 0 0 3 3 】

上記実施形態では、シート片 5 は、蓋本体 3 の一つの辺部から延設されているが、例えば、図 8 に示すように、蓋本体 3 の 2 つの辺部から延設されていてもよい。具体的には、該シート片 5 は、第 1 正面壁 3 3 の下辺部 3 3 a から一体的に延設された第 1 シート片 5 ' と、第 2 正面壁 3 4 の下辺部 3 4 a から一体的に延設された第 2 シート片 5 " と、を有する。第 1 シート片 5 ' 及び第 2 シート片 5 " も、上記実施形態と同様にして、それぞれが向かい合うように蓋本体 3 の内部へ折り曲げ、且つ蓋本体 3 の凹部 3 5 に嵌入することにより、蓋本体 3 内に 2 つの物品収納空間 6 , 6 を形成できる。なお、このように 2 つの物品収納空間 6 , 6 を形成する場合、第 1 正面壁 3 3 は、紙バック 2 の傾斜面部 2 5 との間に空間を有するように、上方へ膨らんだ形状に形成されていることが好ましい（図 8 参

50

照)。

【0034】

また、図9及び図10に示すように、シート片5の長さを上記実施形態の略2倍に形成することにより、1つのシート片5によって蓋本体3内に2つの物品収納空間を形成することもできる。具体的には、シート片5は、例えば、第2正面壁34の下辺部34aから延設されている。該シート片5の長さは、シート片5を折り曲げた際、その中間部55が蓋本体3の凹部35に嵌入可能で、且つその先端辺部5cが第1正面壁33の下方側に接しうる長さに形成されている。

なお、該シート片5の中間部55には、シート片5の基部に形成されたヒンジ部51と同様に、シート片5の全幅に渡って凸状に延びるヒンジ部56が形成されていることが好ましい。その他、必要に応じて、上記実施形態と同様に、補強リブとなる突部や、板状突出部に当接する突部などを適宜形成してもよい(これらは、図9及び図10に於いて、図示せず)。

かかるシート片5は、中間部55のヒンジ部56に於いて山折りされると共に、基部のヒンジ部51に於いてシート片5全体を蓋本体3の内部に折り曲げ、シート片5の中間部55を蓋本体3の凹部35に嵌入することにより、2つの物品収納空間6, 6を形成できる(図10参照)。

この場合、図10(b)に示すように、第1正面壁33の下方部に切り目33aを形成し、該切り目33aで囲われた部分を蓋本体3の内部に押し込むことにより、第1正面壁33の一部分に、上方に斜め傾斜した掛止片部33bを形成してもよい。該係止片部33bの上方から、上記折り曲げられたシート片5の先端辺部5cを差し込むことにより、蓋本体3内に折り曲げられたシート片5を外れ難くすることができる。

【0035】

また、上記実施形態では、蓋本体3の凹部35の内寸が、紙バック2の板状突出部21の肉厚よりも随分と広いものを例示したが、例えば、図11に示すように、凹部35の内寸が、板状突出部21に肉厚よりも僅かに広いものでもよい。

さらに、同図に示すように、蓋本体3の側壁面31, 32に形成される係合凸部36を、上記実施形態に比して、少し上方側に配置してもよい。

また、同図に示すように、シート片5と共に物品収納空間6を形成する第2正面壁34の、凹部35の境界部分に、下方に凹む段部34bを形成してもよい。

【0036】

さらに、上記実施形態では、折り曲げたシート片5の一部が、蓋本体3の凹部35に嵌入されるものを例示したが、シート片5を折り曲げた際、その一部が蓋本体3の凹部35に嵌入されないものでもよい。

また、上記実施形態に於いて、紙バック2は、一对の傾斜面部25, 26が平坦状のものを例示しているが、例えば、一方の傾斜面部25の中央部に、筒状の注ぎ口が突設されている紙バック2を用い、該紙バック2に本発明の蓋1を被せることもできる。かかる筒状の注ぎ口を有する紙バック2は、酒やみりんなどを入れる紙バックとして広く用いられている。

この場合、蓋1は、例えば、その正面壁の一部が紙バック2の上記筒状の注ぎ口に対応して凹状に形成されているものや、例えば、図8に示すように、第1及び第2正面壁33, 34の双方が上方に膨らんだ形状に形成されているものが好ましい。

【図面の簡単な説明】

【0037】

【図1】本発明の紙バック用の蓋の一実施形態を示す平面図。

【図2】同側面図。

【図3】図1のI-I線断面図。

【図4】図1のII-II線端面図。

【図5】紙バックの一実施形態を示す斜視図。

【図6】同蓋の使用状態を示す断面図。

10

20

30

40

50

【図 7】同蓋を紙パックに取り付けた状態を示す断面図。ただし、紙パックは、二点鎖線で示し、紙パックの上方部のみを概略的に表している。

【図 8】本発明の紙パック用の蓋の他の実施形態を示す断面図。

【図 9】本発明の紙パック用の蓋の他の実施形態を示す断面図。

【図 10】(a) は、同蓋の使用状態を示す断面図、(b) は、同 (a) に掛止片部を形成した蓋の使用状態を示す断面図。

【図 11】本発明の紙パック用の蓋の他の実施形態を示す断面図。

【符号の説明】

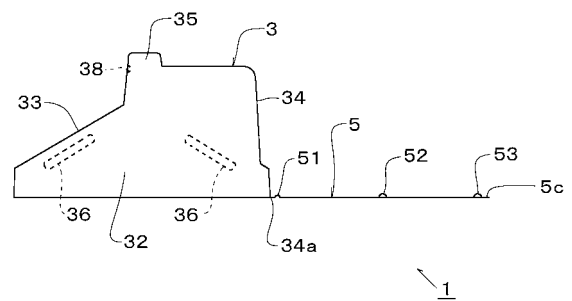
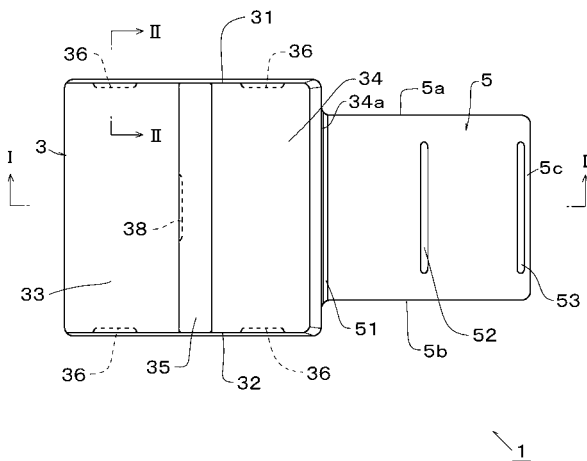
【0038】

1 ... 紙パック用の蓋、2 ... 紙パック、21 ... 紙パックの板状突出部、22 ... 紙パックの上方部、25, 26 ... 紙パックの傾斜面部、25a, 26a ... 傾斜面部の側辺部、27 ... 紙パックの凹み面部、3 ... 蓋本体、35 ... 蓋本体の凹部、36 ... 蓋本体の係止凸部、5 ... シート片、5c ... シート片の先端辺部（嵌入領域）、52, 53 ... シート片の突部

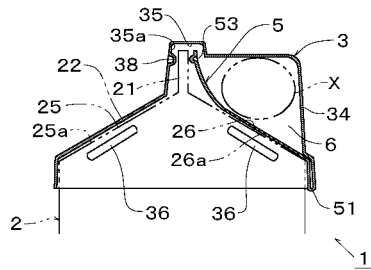
10

【図 1】

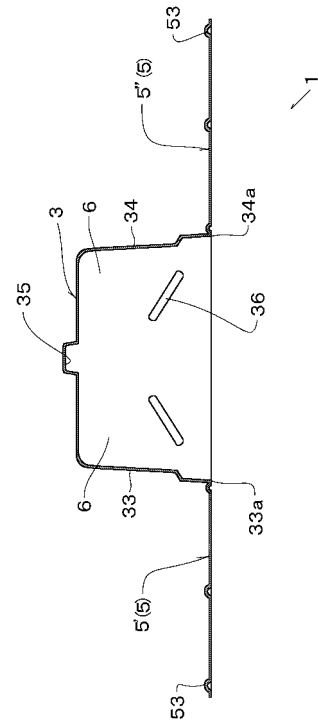
【図 2】



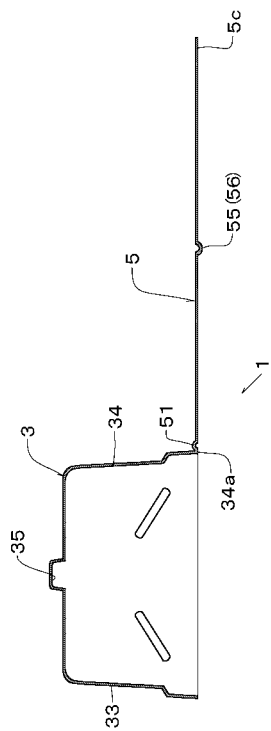
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

